

鉢形城(国の史跡, 百名城) (大里郡寄居町大字鉢形) (鉢形城公園)

鉢形城（はちがたじょう）は、埼玉県大里郡寄居町大字鉢形にある戦国時代の日本の城跡である。構造は連郭式平山城。

概要

鉢形城は戦国時代の城跡である。現在は国の史跡に指定され、鉢形城公園（はちがたじょうこうえん）として整備されている。園内には鉢形城歴史館（はちがたじょうれきしかん）が建てられ、往時の鉢形城の姿を紹介している。

鉢形城は、深沢川が荒川に合流する付近の両河川が谷を刻む断崖上の天然の要害に立地し、その縄張りは唯一平地部に面する南西側に大手、外曲輪、三の曲輪（三ノ丸）の三つの郭を配し、両河川の合流地点である北東側に向かって順に二の曲輪（二ノ丸）、本曲輪（本丸）、笹曲輪と、曲輪が連なる連郭式の構造となっている。搦手、本丸、二ノ丸、三ノ丸および諏訪曲輪には塹壕をともない、また北西側の荒川沿岸は断崖に面する。

初めて築城したのは関東管領山内上杉氏の家臣である長尾景春と伝えられている。その後、小田原の後北条氏時代に北条氏邦によって整備拡張され、後北条氏の上野国支配の拠点となった。その後、下野国遠征の足がかりともなったが、その滅亡とともに廃城となった。

関東地方に所在する戦国時代の城郭としては比較的きれいに残された城のひとつと云われ、1932年（昭和7年）、国の史跡に指定された。1984年（昭和59年）からは寄居町による保存事業が開始された。現在は鉢形城公園として整備され、鉢形城歴史館が設置されている。

歴史・沿革

- 1473年（文明5年）6月、山内上杉氏の家宰であり、同家の実権をふるった長尾景信が古河公方足利成氏を攻める途中、戦闘は優位に進めたものの景信自身は五十子において陣没した。長尾家の家督を継いだのは景信の嫡男長尾景春ではなく弟長尾忠景であり、山内上杉家の当主上杉顕定も景春を登用せず忠景を家宰とした。長尾景春はこれに怒り、1476年（文明8年）、武蔵国鉢形の地に城を築城し、成氏側に立って顕定に復讐を繰り返すこととなる。これが鉢形城の始まりである。
- 1478年（文明10年） 扇谷上杉氏の家宰太田道灌が鉢形城を攻め、ようやく上杉顕定が入城した。
- 1488年（長享2年） 扇谷の上杉定正が鉢形城の上杉顕定を攻めるため兵をおこし、城の近くで両軍が遭遇して高見原の戦いが起こった。このとき、定正は戦闘には勝利したものの鉢形城は落とすことができず撤退した。
- 1494年（明応3年） 上杉定正は再度鉢形城の顕定を攻めようと伊勢盛時（北条早雲）とともに高見原に打って出たが、定正はこのとき荒川渡河中に落馬して死去した。以後、上杉顕定の存命中、鉢形城はその手にあり、顕定の後を継いだ養子の上杉顕実（実父は古河公方足利成氏）も鉢形城を拠点とした。
- 1512年（永正9年） 上杉顕実は同じ顕定の養子であった上杉憲房^[1]の軍に包囲されて鉢形城は落城、顕実は命を助けられたものの山内上杉家当主の座を失った。
- 1515年（永正12年） 憲房は山内上杉氏の家督を継ぎ、同年に顕実が死ぬと関東管領職をも継いだ。しかし、家臣として仕えていた長尾景春が離反し、扇谷上杉家の上杉朝興、相模の後北条氏2代北条氏綱、甲斐の武田信虎などとの長年にわたる抗争のなか、1525年（大永5年）3月に病没した。後を養子の上杉憲寛が継いだが、のちに争いの末、実子の上杉憲政が継いだ。
- 1546年（天文15年） 北条氏3代北条氏康が上杉朝定・上杉憲政の拠る川越城を攻略する河越夜戦が起き、それに勝利して北条氏が武蔵国における覇権を確立した。

- 1564 年（永禄 7 年） 氏康四男北条氏邦が鉢形城へ入城した¹。以後、鉢形城は北条氏の北関東支配の拠点となった。その後も戦略上の重要性から、各地の戦国大名の攻防の場となっており、1569 年（永禄 12 年）には武田信玄による攻撃を受け、1574 年（天正 2 年）には、上杉謙信が城下に火を放っている。
- 1590 年（天正 18 年） 豊臣秀吉による小田原征伐がはじまり、鉢形城は前田利家・上杉景勝・島田利正・真田昌幸、徳川家康麾下の浅野長吉、本多忠勝、鳥居元忠 らの連合軍（35000）に包囲され、北条氏邦の老臣黒澤上野介ら（3000）が約 1 か月の籠城戦を戦ったのち、開城した。その後、徳川家康の関東討入にともない、成瀬正一、日下部定好が代官となって周辺の統治を行った。

現代

- 1932 年（昭和 7 年）4 月 19 日 遺構の残存状況がきわめて良好な考古資料であり、関東地方の戦国時代の状況を示す文献資料も豊富に残されていることから、「鉢形城跡」として国の史跡に指定された。
- 2006 年（平成 18 年）4 月 6 日 日本 100 名城（18 番）に選定された。

Wikipedia による





箕輪城跡 案内図



説明書



昭和57年3月